

問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- ① 耳にピアスをしている若者が目につくようになって久しい。以前は女性でさえイヤリングはしてもピアッシングまではしなかったのだが、最近ではピアスをしている男性が少しもめずらしくなくなってしまった。耳だけではない。ときには鼻や舌などにしていて、一瞬 **A** ことがある。
- ② 髪にしてもそうだ。 **B** 脱色したり色を染めたりするだけではなく、固めたり、削り上げたりと、さまざまな加工をしている。目につかない部分でも、若者たちははずいぶんいろいろいるなことをしているらしい。
- ③ 一昔前ならば、なんと①ヤパンなことを、と **C** を買ったに違いない。親に与えられた身体をことさらに傷つけることは、②フキンシンなことなのだ。だが、さらにその前を考えると、微妙なことになる。つい二百年ほど前でさえ、男性は月代(注1)を剃っていたし嫁いだ女性はお歯黒をしていた。眉を削ることもめずらしくなかったのである。
- ④ ことは日本に限らない。中国にはつい五十年ほど前まで辮髪(注2)もあつたし纏足(注3)もあつた。西洋にしたって同じだ。三百年ほど前には、たとえば女性は額を大きく削り上げていたのである。コルセットにいたっては今世紀初頭まで残っていた。身体を傷つけないことこそ文明であると見なされるようになったのは、つい最近の出来事にすぎなかったわけである。おそらく、十八世紀の啓蒙主義(注4)以降のことと言って、③タイカないだろう。その段階で文明に関する考え方が大きく変わったのだ。
- ⑤ **D** 動物は自分の身体を傷つけない。ただ人間だけが傷つけるのだ。とすれば、(1) 身体加工こそ人間の特徴、すなわち文明であるということになる。ピアスをしたり、毛髪を特殊なかたちにしたりする若者は、 **E** きわめて人間的であり、文明的であるということになる。(2) ちよつとした逆説である。だが、この逆説は、④ジュッコウに値する。
- ⑥ 刺青でも抜歯でもいい。人間が人間になったのは、明らかに自分の身体を傷つけることによってである。それではなぜ人間は自分の身体を加工するようになったのか。自分が自分であることを確かめたいため、社会における自分の位置を明らかにしたいからだ。とすれば、人間は自分が自分であることを確かめずにはいられない存在なのだということになる。逆に言えば、人間は、確認しないかぎりには、 **F** 存在なのだ。
- ⑦ これはとても興味深い事実だ。なぜならそれは、人間はじつに何にでもなれる存在だということだからである。狐にでも狼にでもなれる存在、木にでも石にでもなれる存在だということだからだ。実際、憑依現象(注5)は人間の文化と切り離しがたく結びついている。
- ⑧ 憑依現象といえは、まるで未開やヤパンの典型のように響く。だが、そんなことはない。 **G** 文明の⑤ホツタンなのである。類人猿に憑依現象はない。人間は、巨大集団を形成することによって他の動物には見られない力を発揮してきたが、それが可能になったのはこの憑依現象によつてなのだ。宗教や芸術の根底にも同じ憑依現象があると言つていい。
- ⑨ 自分が自分であることを知るには、他人にならなければならぬ。人間の自己意識の仕組みは、そのまま社会の仕組みに重なつているのである。人間の社会が類人猿の社会から飛躍したのはこの仕組みによつてだが、そのもつとも⑥カンメイな表れが憑依現象だったわけだ。(3) 自己とは小さな憑依現象であり、社会とは大きな憑依現象であると言いたいほどだ。 だからこそ人間は、憑依現象の一形式としての⑦プロヨウを、そして演劇を発明したのである。
- ⑩ 難しいことではない。 **H** 人間は何にでもなれるということにすぎない。けれど、この自由はそのまま不安をも意味している。身体加工は、何にでもなつてしまいかねない自分というものを、あるひとつの何かに固定する技術として成立したのである。とすれば、いま若者たちが自分の身体を加工することに熱中していることの背後にも、同じ不安が潜んでいると考えるべきだろう。二百年ほど不安を感じなくなったのか、と。
- ⑪ 問いはしたがって、若者たちに向けられるよりは、身体加工をしなくなった人間たちに向けられるべきなのだ。なぜ人間はこの二百年ほど不安を感じなくなったのか、と。
- ⑫ (4) 身体加工は啓蒙主義の頃から廃れはじめた。 **I** その頃から、自分は人間であると信じるだけで、不安がある程度は解消されるようになったのである。人間は生まれたままの姿こそもつとも美しい。これが人間主義 **J** ヒューマニズムの時代の⑧ヒョウゴだった。だがおそらくいまや、自分が人間であるといった程度のことでは不安が解消されなくなつてしまつたのだ。科学技術の⑨キョウイテキな発展とともに、人間はついに自分たちの不気味さに本格的に気づきはじめてたとも言おうか。
- ⑬ ⑩ボウダイな情報の洪水のなかに溺れながら、いま人間はふたたび、(5) 原始時代と同じ不安にさいなまれはじめているように思われる。

(三浦雅士『考える身体』による。なお、本文に一部変更がある。)

(注)

- 1 月代Ⅱ近世、成人男子が、額から頭の中ほどにかけて髪を剃つた部分の称。
- 2 辮髪Ⅱ頭髮の中央を長く編んで垂らし、他の部分を剃つたもの。
- 3 纏足Ⅱ昔、中国で美人の条件とされた小さな足にするため養女の頃から親指以外の足首を内側に曲げて布で緊縛し、その発育を妨げたこと。また、その足。
- 4 啓蒙主義Ⅱ十八世紀の西洋思想の一つ。理性は万能でありこれで、真理を捉えたり自己救済も可能であるとす。
- 5 憑依現象Ⅱ霊や動物などが人間に乗り移るできごと、また、その有り様。

問1 傍線部①～⑩のカタカナ部分を漢字で書きなさい。

問2 空欄A・Cに入るべき適語を、次の語群より選び、記号で答えなさい

AⅡア ためらう    イ 軽蔑する    ウ たじろぐ    エ 感心する  
CⅡア 嘲笑    イ 失笑    ウ 顰蹙<sup>ひんしゆく</sup>    エ 同情

問3 空欄B・D・E・G・H・I・Jに入るべき適語を、次の語群より選び、記号で答えなさい。

ア したがって    イ 要は    ウ 恐らく    エ すなわち  
オ むしろ    カ たんに    キ いうまでもなく

問4 この文章の構成を「問題提起・論証・結論」と考えた場合、「論証」にあたる部分はどこからどこまでか。形式段落の数字で答えなさい。

問5 波線部(1)とあるが、「身体加工」は人間の存在にとってどのような意味をもつか。本文中の表現を使って、二つ書きなさい(それぞれ四十字以内)。

問6 波線部(2)について、どのようなことが「逆説」なのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 身体を傷つけることが文明的とみなされるようになったのは最近で、以前はそうではなかったということ。  
イ 身体を傷つけることは中国や西洋でも行われてきたにもかかわらず、日本では問題視されていたこと。  
ウ 身体を傷つけることは文明からかけ離れているように思えるが、実は人間的・文明的な行為であるといえること。  
エ 身体を傷つけることはヤバンであるとされながら、多くの文化においてそれが行われているということ。  
オ 親に与えられた身体を傷つけることはよくないと知りながら、若者がピアスや毛髪を加工すること。

問7 空欄Fに入る表現を、次から選び記号で答えなさい。

ア 自分をどうとでもできる。    イ 自分が自分である。    ウ 自分が自分でない。  
エ 自分が他人である。    オ 他人から認められない。

問8 波線部(3)とはどのようなことか。その説明として、適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分は何にでもなれるのだという個人の意識を認める社会が、すぐれた文化を生み出すということ。  
イ 一人一人が他人の気持を考えて行動することが、ひいては思いやりのある社会の構築につながることに。  
ウ 別の社会のあり方を模倣することにより、社会を進化させ、帰属する一人一人が自己を確立させること。  
エ それまでと異なる存在になっていくことで自己を確立し、集まった個人がそれぞれの役割を果たし社会を構成すること。  
オ 社会を構成する全員が、共通するものに自己を同化させて個人を確立するとともに、社会の一体感を保つこと。

問9 波線部(4)とあるが、なぜか。六十文字以内で説明しなさい。

問10 波線部(5)とあるが、どのようなことか。最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 大量の情報があふれる現代に生きる人間は、自己を形成するためのモデルを見失い、自分が自分であることを確かめることが困難になっている。  
イ 身体を傷つけないことこそ文明であるという考えはつい最近のものであり、自分のそういう生き方が人間本来の姿といえるかどうか自信を失いつつある。  
ウ 人間は自分が自分であることを確かめずにはいられない存在だが、その確認が憑依という手段でしかなされないことに対していらだちを感じ始めている。  
エ 人間は巨大集団を形成することによって他の動物を凌駕<sup>りよが</sup>してきたが、その勢いにかげりが見え始め、主の存続の危険性を意識するようになっていく。  
オ 人間は本来自由な存在であり何にでもなれるはずなのに、大量の情報にとりかこまれてくるためにかえって身動きがとれず、あるひとつの何かに固定されているように感じている。